



線路は続いて…それからどうなった？

園長 本多 郁代

5月1日、さくら組（年長）の子どもたちが荻川駅から電車に乗って、新津駅近くで開催される一・六市に行ってきました。帰ってくるなり口々に「楽しかった！」を連発する子どもたち。電車体験は大満足だったようです。その感動はすぐに遊びに反映され、幼稚園には線路が所狭しと出来上がり、蒸気機関車も友達を乗せて走り出しました。



それを目にしたばら組（年中）さん、乗り物に興味のある子どもを中心にお部屋の中に線路が出来上がり、その後、ばら組（年中）からも線路を廊下へつなげようと頑張ります。しかし、さくら組（年長）のようにサクサクと線路は伸びません。すると、それを見ていたさくら組（年長）の子どもが、「（線路づくりを）手伝おうか？」とばら組（年中）の子どもに声を掛け、線路はどんどん伸びていきました。はじめは、お部屋の外の右側に線路を延ばしたかったばら組（年中）のお友達でしたが、さくら組（年長）のお友達が、「両方に延ばせばどちらにも行けるよ！」と提案し、線路は両方向に進んでいくこととなりました。



やがて、廊下やそれぞれのお部屋にはいろいろな駅ができました。神様駅では大きな鳥居をくぐったり、音楽駅では素敵な演奏家が楽しい音楽を聞かせてくれたりしました。ばら組のお部屋にもアイスクリームやクレープを売るお店が出来上がり、アイスクリームを買ったひよこ組（年少）のお友達が、うれしさのあまり園長室にアイスクリームを持ってお知らせに来てくれました。



異年齢で遊ぶ活動を通して、年長の子どもたちは、下学年に思いやりの気持ちをもって接するだけでなく、自分の考えを伝えながら年中の友達と協力して線路を繋げていました。また、年中の子どもたちは、自分たちでもお店を作り、自分たちが先輩にしてもらった経験を基に、年少の子どもたちに優しく接していました。年少の子どもたちは、先輩から程よい刺激をもらい新しい体験を楽しんでいました。今後、遊びがどのように広がりどのような関わりが生まれるのか、楽しみです。

「異年齢保育で何が育つのか」を今後も明らかにしながら、保育を進めてまいります。